定期総会での代議員の発言

要旨

原　守男代議員（十分会）

統一活動の重要性については、組合内で論議され実践されてきていますが、活動の到達点、問題点がどこにあるのかを明らかにする時期ではないでしょうか。

有明鉱災害での抗議行動や抗議集会、職場での保安確保をはじめとする諸要求のたたかいを、三池労組が取り組むことによって新労組員の期待と行動が生まれてきます。

新労組員や、社外工の要求をとりあげ、たたかいの戦線を広げていくことが重要な課題であり、積極的に取り組んでほしいと思います。

岩下幸男代議員（一分会）

鉱山保安監督局との交流会に現場代表の参加をさせてほしい。

福岡県評の安全センター設立の内容について説明願います。

職場のたたかいですが、坑内の高温重筋肉労働の中で、腰痛症、難聴、振動病、さらに熱中症が多発し、大きな問題となっています。

職場から労災・職業病をなくすたたかいが、今もっとも求められていると思います。

田上　勇代議員（十四分会）

このたびの有明鉱災害は、守るべきことを守らなかった結果起こった災害であり、これを理由に会社は労働者の労働条件や福利厚生までも切り下げようとしています。違反しながら他に責任を転嫁しようとする会社を、厳しく追及しなければならないと思います。

たたかいの成果と欠陥についてですが、このことを明らかにすることと同時に、たたかう多くの仲間との交流と連帯を強化するための努力を、どのようにするかなど討議を深めるべきです。

田中教幸代議員（八分会）

いま、どの職場も人員減による労働強化が広がり、係員をふくめ負傷者が増えています。三池労組員は現場で先山クラスであり、高齢化もあって、職場の不満や怒りをとりあげきれずにいます。

職場活動の停滞が、繰り返しわれ討議されていますが、私はどんな小さな要求でも、みんなの共通するものであれば、職場全体で取り組むことが大切だと思います。

つぎに、職場分会、地域分会の編成についての今後の考え方を明らかにして下さい。

川野房雄委員（三分会）

長期抵抗統一路線の理解が前進しているか、弱くなっているのかもっと討議を深めるべきだと思います。

四山鉱では人事が柵内に移転し、労働者への出勤督励、監視が強まる一方、深部化に伴う職場環境の悪化が職場では大きな問題となっています。

職場の高温、これから派生する諸問題のたたかいに、新労組員をまきこみ改善させていくことと、組夫の状況を的確につかみ、たたいに立ち上がるよう指導を強化すべきだと思います。

森のぼる委員（一分会）

政治、社会情勢の変化、組合分裂から二十五年を過ぎ、私たちの社会生活の中で、労働組合の発言力が低下し、労働者自身が確信を持てずにいる状況があります。

私たちはたたかいを起こすにしても具体性のある目標、例えば新労組員に何をどのようにしていくのかなど論議できずにいるといえます。期末のたたかいも中央の動きを見守っているという感じしかないし、坑外下請化反対のたたかも、腕章をはめているだけの感じです。

たたかいの指導と、職場でたたかっているという実感と展望が切実に求められていると思います。

来賓のご紹介

大牟田地評＝黒田事務局次長。荒尾地評＝式島会長、桃島事務局長。社会党＝蓮尾大牟田総支部長。共産党＝下川福岡県委員。三池CO医療団＝全子東京都立松沢病院副院長、小鹿原大阪北山病院医師。政治局＝酒井熊本県議、大橋・島大牟田市議、坂本・百田・蒲池・前川荒尾市議。主婦会＝平川・藤田・中原・片山・田中各役員。

祝電・メッセージ

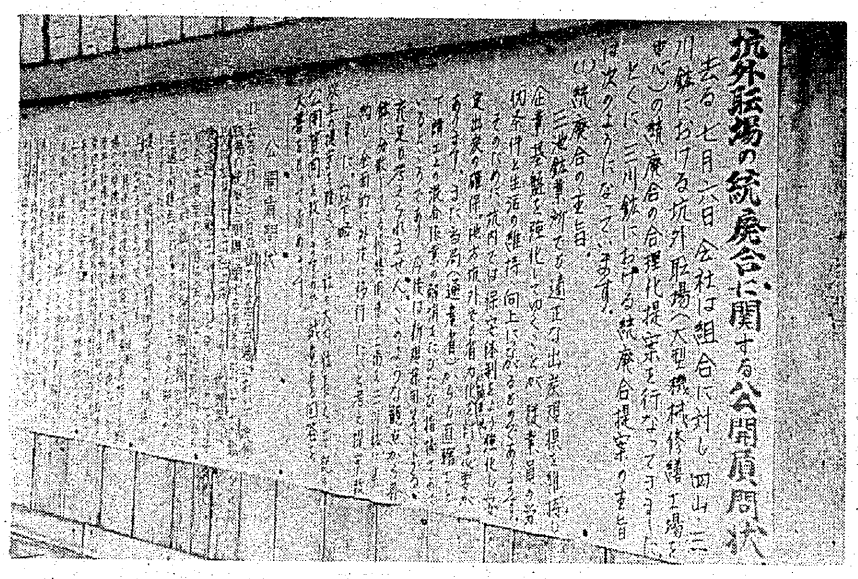
橋本炭労中央執行委員長。阿部根参議院副議長。細谷衆議院議員。長谷川福岡県議。堀田熊本労働金庫理事長。

どうなってんの？

三川鉱長に宛てて

坑外職場分会が公開質問状

坑外職場の統廃合についての会社提案に対し、三川鉱の坑外職場分会は三川鉱柵内の掲示板に出し、疑問点などに早急に回答するよう求めています。



三川坑柵内の掲示板に貼り出された坑外職場分会の公開質問状

七月六日、会社は組合に対し四山・三川鉱の坑外職場（大型機械修繕工場）を中心とする統廃合合理化を提案してきました。

大綱的な提案内容

(1)統廃合の主旨

適正な出炭規模を維持し、企業基盤を強化していくことが従業員の労働条件と生活の維持・向上につながるものである。

そのために、坑内では保安体制をより強化し、安定出炭の確保をめざし、坑外においては省力化・簡素化をはかる必要がある。

また、当局（通産省）からも直轄工と下請工との混合作業の解消をたびたび指摘されている。

今後は新規採用などによる人員充足も考えられない。したがって、各鉱に分散している修繕関係の工場を三川鉱に集約し、全面的に外注に移行したい。

(2)直轄工の作業内容（略）

(3)転職希望者は、炭務部、資材管理係等に転職させる。

以上の提案を受けましたが、三川鉱の大内鉱長へ次のような公開質問をいたしますので、誠意ある回答を文書で求めます。

坑外職場の統廃合に関する公開質問状

(1)五月二十六日の三川鉱生産会議のなかで、坑外職場の統廃合問題に関する考え方として大内鉱長は、「私見としては仕上場、カッター修繕工場は従来通り直轄工でやりたい」と発言しましたが、今回の提案内容はそれとはまったくかけ離れた内容となっています。鉱と施設部で検討された経過と問題点を明らかにすること。

(2)提案の主旨では、「従業員の労働条件と生活の維持・向上」といいながら、具体的な内容では生産体制に直結する職場（大型機械の修繕工場）は下請けに切り換え、しかも直轄工の転出先の職場は「炭函かすり・木片回収」などであり、このような職場の労働条件では実質賃金の低下であることは明白です。

したがって労働条件と生活の維持・向上とはどのようなことなのか明らかにすること。

(3)当局から、直轄工と下請工との混合作業の解消を指摘されているので、それを実現するためだと提案していますが、私たちはここ数年、鉱の生産会議でも混合作業を指摘してきましたが、鉱は「混合作業は解消している」と言明してきました。

いま、あらためて混合作業の解消を持ち出してきた理由を明らかにすること。

(4)転出先にあげている炭車修理場は、現在下請化されていますが、今回直轄工に切り換える理由を明らかにすること。

さらに、固定配役ということですが、何名配役するのか明らかにすること。

(5)車道修理。炭函かすり。木片回収。小物品の回収、手入れ等への集約となっていますが、具体的な日常配役、作業内容などを明らかにすること。

(6)転職希望者は、炭務部・資材管理係等となっているが、他の職種（例えば、安全灯・浴場・人事等）への受け入れ職場や人員について明らかにすること。

三池労組役員選挙　日程

八月一日（水）	選管発足	
八月二日（木）	告示	
八月七日（火）	投票	
八月八日（水）	開票	
八月九日（木）	機関構成	
	委員会	

大会宣言

一月十八日、有明鉱で引き起こされた坑内火災は、八十三名の労働者の生命を奪い、十六名の負傷者を出す大災害となった。

この災害は、三川鉱大災害などの尊い教訓がまったくいかされず、生産第一主義・人命軽視の結果起こったもので、いっさいの責任は会社にある。

われわれは生命までも売ってはいない。

生命を奪う資本の合理化を許さず、保安確立とCO裁判の勝利へ向けてたたかわなければならない

三池炭鉱においては、すべての職場に減量合理化がおし進められ、人員削減による労働強化、実質的な賃下げなど労働条件の低下は、依然として起こる労働災害とともに耐え難いものとなっている。

このような攻撃を許さず、生命と生活を守るたたかいを強めなければならない。

いま、炭鉱労働者は政府の国内炭軽視の石炭政策と、資本の労働者無視の合理化政策によって「地下労働者にふさわしい」どころか、「人並み」にも追いつかない劣悪な労働条件のもとで苦闘している。

第七次石炭政策は確実に破綻しているが、石炭産業発展のために産業別統一闘争を強化し、第八次政策の確立と、公社・公団・国有化をめざしてたたかわなければならない。

社会補償や福祉を切り捨て、大増税、軍拡、戦争への道をひた走る中曽根自民党政治に鉄槌をあたえ、平和とくらしを守るたたかいに積極的に取り組まなければならない。

われわれは、明日への展望をきりひらくために、いっそう団結を強め、持てる力を最大限に発揮し奮闘することを決意し、宣言する。

一九八四年七月二十九日

三池炭鉱労働組合定期総会

スローガン

一、長期抵抗統一路線を基調に、職場と地域闘争を強化し、三池炭鉱全労働者の統一闘争の前進をかちとろう。

一、炭鉱労働者の生命と権利を守るたたかいを土台に、石炭産業の公社・国有化をめざす政策闘争を推進しよう。

一、CO・遺族闘争を推進し、労災・職業病のたたかいと連帯しながら、CO裁判闘争勝利にむけて頑張ろう。

一、自民党・財界の、国民を犠牲にする行政改革・軍拡路線と対決し、八五春闘を勝利しよう。

一、たたかう総評路線を守り、右翼的再編の労働戦線統一に反対しよう。